

UDC 666.76 : 539.217 : 620.193.19 : 531.754

R 2205

JIS

耐火れんがの見掛気孔率・吸水率・ 比重の測定方法

JIS R 2205⁻¹⁹⁹²

平成 4 年 5 月 1 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 25. 4. 19 改正：平成 4. 5. 1

官 報 公 示：平成 4. 5. 18

原案作成協力者：耐火物技術協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 窯業部会（部会長 鈴木 弘茂）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部繊維化学規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

耐火れんがの見掛気孔率・吸水率・ 比重の測定方法

R 2205-1992

Testing method for apparent porosity, water absorption
specific gravity of refractory bricks

1. 適用範囲 この規格は、焼成した耐火れんがの次の各項の試験方法について規定する。

- (1) 見掛気孔率
- (2) 吸水率
- (3) 見掛比重
- (4) かさ比重
- (5) 真比重

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS Z 8401 数値の丸め方

JIS Z 8801 標準ふるい

2. 装置及び器具

2.1 乾燥装置 温度 110 ± 5 °Cに保つことのできる自動温度調節器付電気恒温器を用いる。

2.2 質量計⁽¹⁾

- (1) かさ比重の測定には、1 g又は0.1 g単位まで測定できる質量計を用いる。
- (2) 真比重の測定には、0.1 mg単位まで測定できる質量計を用いる。

注⁽¹⁾ 試験片の質量が1 000 gを超えるときは1 g単位まで、また、1 000 g未満のときは0.1 g単位まで測定できる質量計とする。

2.3 飽水装置

- (1) 煮沸法の場合は、水の沸点に保持できる装置を用いる。
- (2) 真空法の場合は、2.0 kPa以下に真空が保持できる装置を用いる。

2.4 比重瓶 容量50 mlのガラス製比重瓶を用いる。

3. 試料

3.1 見掛気孔率、吸水率、見掛比重及びかさ比重の場合、試料は供試耐火れんがから試験片をつくり、その大きさは並形れんが半切又は並形れんが $\frac{1}{4}$ 切程度とする。

なお、試験片の取扱いについては、次の各項に注意する。

- (1) 試料は、あらかじめちり、ほこり及びはがれやすい粒子をよく除去しておかねばならない。
- (2) 外観上、甚だしい凹凸のない試料を用いなければならない。

3.2 真比重の場合は、供試耐火れんがの焼成表面の異物を除去し、JIS Z 8801に規定する標準網ふるい6.7 mmを通過する程度に粉碎し、四分法によって約250 gをとる。次いで、JIS Z 8801に規定する標準網ふるい300 μ mを全通するように粉碎し、四分法によって約30 gをとり、試料とする。